
龍舞う夜に咲くサクラ

近衛龍一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍舞う夜に咲くサクラ

【Nコード】

N8134Y

【作者名】

近衛龍一

【あらすじ】

モテるのに女子を大の苦手とする如月龍。

ある日、母親に仕送りを盾に1人の女の子を預かってくれと頼まれる。

渋谷約束の場所に行った龍は、滅多に咲かない桜の下で、少女、東雲桜と出会うのだった。

『奇跡』（前書き）

新連載です！

よろしくお願ひします！

『奇跡』

『奇跡』

この世の誰もが知っている言葉で、この世の誰もが何かしらの奇跡を信じている。

この世に存在する奇跡は偶然なのだろうか？

数少ない奇跡を経験した人にだってその答えは分からない。

『これは奇跡なんかではない。運命だったんだ』

出会いという名の奇跡にあった人は皆、こう言う。

しかし俺は出会いとは奇跡だと思う。

出会うはずのなかった2人が出会い、その出会いをものにする。

それが奇跡なんだと思う。

龍舞う夜にしか咲かないサクラの木の下で、満開に咲くサクラの中、俺とあいつは出会ったんだから……

電話

「あ、あの！ 私、ずっと如月君のことが好きでした！ 付き合ってください！」

「……………断る。他を当たってくれ」

「む、無理です！ 如月君以外の人を好きになるなんて！」

「それで俺が納得すると思うか？ 無理なものは無理だ。俺はもう帰る」

「あ、如月君！」

俺の名前は如月龍^{きげんりゅう}。

私立桜坂高校に通う高校二年生だ。

自慢ではないが、俺はかなりモテる方だ。

週に1回は告白されてはフって、されてはフって…………

そんな日常がただ続いている。

毎回断っている理由は、俺が女子を嫌っているから。

もつと言えば、女子という存在を嫌っている。

毎日懲りずに俺を見てはキヤーキヤー言うその存在が嫌いなのである。

そして今また、女子をフった。

毎度のことで軽く流した俺は、靴箱で上履きから靴に履き替えて学校を出る。

はあ……………いつまでこんな生活が続けばいいんだ……………？

最近はまだ一度告白しにきやがるやつもいるし、散々だ…………

早く帰って寝よ…………

「おう龍！ 今帰りか？」

「ん？ なんだ翔太か……………」

「なんだはねえだろ。女の子が追いかけてきたとも思ったのか

「？」

「やめてくれ……。ついさっき女子をフッタばかりなんだ……。追いかけてくるだ？ とんでもない。んなこと微塵も思わねえよ」

「ったく、またフッタのかよ。羨ましいねえ、モテるやつは」

ヤレヤレと両手を広げてため息を吐くこいつは楠木翔太。くすのきしよつた

小学校の頃からの幼馴染で、同じクラスの腐れ縁。

女たらし……という訳ではないが、俺にやたらと羨ましいと言ってくる。

こっちの気も知らずによく言うぜ……

「そういうなら俺と変わるか？」

「出来ればそうしたいぜ。一度くらい女子にモテてハーレムを……って痛っ!？」

妄想を膨らまそうとしていた翔太の頭に学生鞆がヒットし、翔太が現実に引き戻される。

こんなことするやつは……

「翔太つたらまたそんなこと言って！ モテればいいってもんじゃないでしょうが！」

「り、理央……っ!？ いつから居たんだ!？」

「ちょうど見かけたから今来たのよ」

小村理央。こむらいつゆ

これまた俺の幼馴染で、同じクラス。翔太と同じく腐り縁である。小柄な体とポニーテールが特徴的で学校内では結構人気が高いらしい。

強気な性格だが、昔から翔太に恋心を抱いている純情なやつだが、今だにその気持ちは翔太に届いていない。

女子嫌いな俺だが、翔太のことが好きだということをおぼろげに知っていることと、幼馴染ということもあり、仲のいい数少ない異性である。

「まったく……何を話しているのかと思えば……っ！」

「な、なんで理央は怒ってるんだ……？」

「お前がモテたいなんて言うから悪いんだよ」

「????？」

プンスカ怒っている理央を前に、わけがわからないといったような顔をしている翔太。

…… やっぱ翔太は筋金入りの鈍感だな。

「まあ翔太の件は後でじっくり話を聞くとして、龍はまたフツたの？」

「ああ。別にいいだろ。理央だって俺が女子のことが嫌いなもの、知ってるだろ？」

「それはそうだけど……」

「つか今サラッと俺にとって聞き捨てならない言葉が入っていたんだが……？」

「俺はいくら告白されても付き合うつもりはないんだ。それじゃあまた明日な」

「まさかのスルーだと……っ!? おい龍! 俺を見捨てて行くな! 助けてくれ!」

ここからは翔太や理央たちとは違う道なので別れる。

翔太は無視。長年理央の気持ちに気づいてやれないお前が悪いんだ。今だ助けを求めてくる翔太を後に、俺は自宅の方に足を進めた。

『まったく籠ったら！　なんで電話を切るのよ』

「すまん。ちよつと母さんのフリーズにありえないものが聞こえてきたから。で、何を頼みたいって？」

『だ・か・ら！　女の子を一人預かってほしいの！』

「……………やっぱ電話切るぞ」

『何だよ！』

「何でよじゃねえよ！　何故に俺が女の子なんか預からなくちゃいけないんだよ！」

『いいじゃない。あなたの唯一の親からの頼みなのよ？』

「息子一人置いて父さんを追いかけていった母親が言う言葉か！？」

『だってえ〜、お父さんと一緒にいたいんだもん』

「『だもん』　じゃねえ！　つたく、とりあえず俺が預かることになった経緯と理由を教える」

『実は今日お父さんの昔のお友達に会って…………』

「うんうん」

『そのお友達も転勤することになったらしいの』

「それで？」

『そのお友達には一人娘がいるんだけど、どうもその娘と一緒に転勤することが出来ないらしいの』

「なんでだよ」

『アメリカに転勤するらしくて、お父さんが忙しいからその娘が上手く生活できるか分からないんだって』

「ほうほう」

ふむ。ここまで聞くとそれらしい話だな。

『だからその女の子を私たちが引き取ることになったから籠が預かって』

「意味分かんねえよ！　今のどこに俺が預かる流れがあった!？」

母さんが引き取ったなら母さんが預かればいだろうが！」

『ええ〜？ だってそれだとその娘も福岡に連れていけないといけないじゃない。どうせだったら馴染みのあるところの方がいいですよ？』

「だからって俺に押し付けるなよ！ 絶対に嫌だからな！」

『断れないわよ？ 仕送り、どうするの？』

「く……………っ！卑怯者め……………っ！」

桜坂高校はバイト禁止。

その為、親からの仕送りがなくなると生活が出来なくなる。

人の弱味を突きやがったな……………っ！

『さ、どうするの？ 安心して。その娘の分の生活費もちゃんと送るし、預かってくれるなら龍のお小遣いも上げてあげるわよ？』

「ちっ……………！ 分かったよ。引き受けるよ……………」

『ふふっ！ ありがとね龍。それじゃあ今日の夜8時に待ち合わせしましょ。龍神桜の下のベンチでいいかしら？』

「ああ……………。それで、預かるのはどれくらいの子なんだ？」

『あなたと同じ高校2年生よ』

「なっ！？ ふざけるな！ なんでよりによって高校生なんだよ！

おかしいだろうが！」

『あらなんで？ ……もしかして龍、ロリコンに目覚めたとか……………』

「んなわけあるか！ 俺が女子が嫌いなもの知ってるだろ！ なんでよりによって同じ学年なんだよ！」

『だからよ。龍だったら絶対に襲わないもの。安心して預けられるわ』

「安心するな！ というかその父さんの友達は怒らないのか！？」

普通ならどこの骨かも分からないようなケダモノかもしれない男の

家に可愛い娘を預けるなんて嫌だろう。

『ええ。龍の写真見せたらこの子なら娘が襲われてもいいって言うたわ』

「んだと!?! ってことは最初から俺に預けるつもりで話を進めていたのか!?!」

ふざけやがって!

自分の息子を何と思ってるんだ!

『ああ、ついでにその娘、明日から龍と同じ桜坂高校に編入するから、その辺もよろしくね』

「あ! ちよっと待てよ!」

ガチャン

俺の呼びかけも悲しく、電話は無常にも切られてしまった。
やべえ……頭痛くなってきた……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8134y/>

龍舞う夜に咲くサクラ

2011年11月24日01時53分発行